

調査速報

# タイ自動車市場月次統計（2017年7月）

## 輸出減少が内需回復を打ち消す。17年タイ自動車生産はほぼ前年並みに止まり4年連続200万台割れの公算

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

### 要約

- 7月国内生産台数（季調値）は前月比5.8%減の年率195万台。輸出減少が続き2か月連続の減産。
- 内需は新車投入効果が下支えする一方、消費ムードの減退が足かせ要因となり、力強さに欠ける展開。
- 浜銀総研のタイ自動車市場の2017暦年予測は、国内販売85万台、輸出台数110万台、生産台数195万台。

当社 2017年タイ自動車生産台数見通しは前年比0.3%増の195万台とほぼ前年並みにとどまる

タイ工業連盟 (Federation of Thai Industries : 以下、FTI) が発表した2017年7月の四輪車総生産台数は、前年同月比3.3%増となったが、季節調整済年率換算値(当社試算、以下SAAR)も前月比5.8%減の195.1万台と2か月連続で減少した(図表1)。

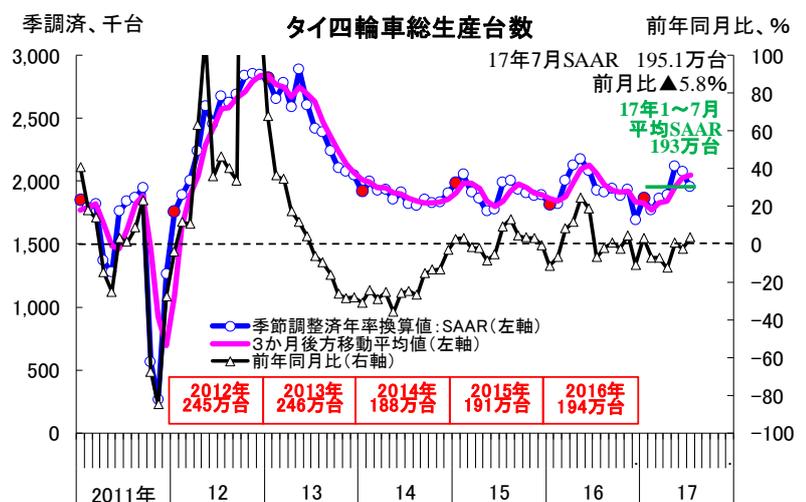
SAARでみた減産の背景には、輸出台数の減少がある。7月の総輸出台数は前年同月比9.2%減と13か月連続で前年割れとなり、SAARも前月比1.1%減の108.7万台と2か月連続で減少した(図表2)。3か月後方移動平均値でみた基調は5月に反転増加し、底打ちしたかたちだが、浮揚力に欠ける展開となっている。

17年に入ってから持ち直しの動きが続いていた内需も、足元では力強さに欠ける動きとなっている。7月の国内販売台数は前年同月比7.5%増と7か月連続の前年超えとなり、SAARは前月比2.0%増の85.1万台と4か月ぶりに増加に転じたが、3か月後方移動平均値で見たトレンドは5月からの漸減傾向が続いている(図表3)。新型モデルの市場投入が相次いでいることが国内販売を下支えしている一方で、消費者信頼感指数が5月以降、下落基調が続いているように、消費ムードの減退が内需拡大の足かせ要因になっていると推測する(図表4)。

FTIはタイ自動車市場の2017年間予測を見直し、国内販売台数を80万台から83万台へ上方修正した一方、輸出台数予測を120万台から110万台へ引き下げたため、国内生産台数見通しを200万台から193万台に下方修正した。

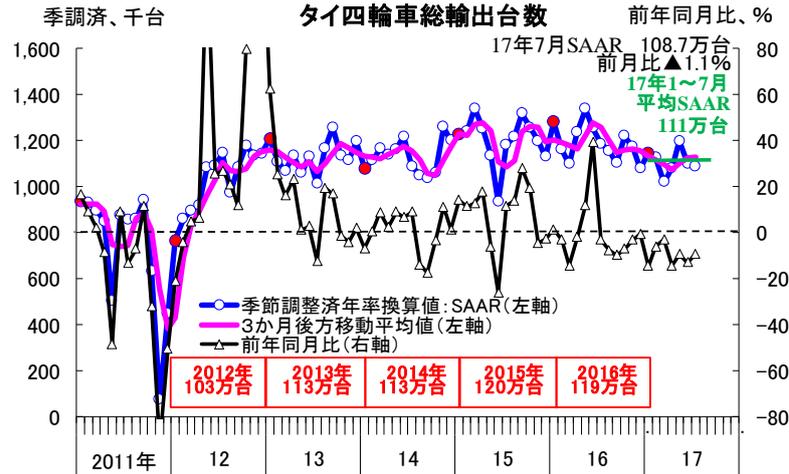
当社では足元の内外需の水準が年末まで続くと想定し(17年8~12月国内販売台数SAAR85万台、輸出台数SAAR109万台)、2017年の国内販売台数を85万台(前年比10.6%増)、輸出台数を110万台(同7.4%減)、生産台数を195万台(同0.3%増)と予測する。中近東向けを中心とした輸出需要の減少が内需回復を帳消しにすることで、生産台数はほぼ前年並みにとどまり、4年連続の200万台割れとなる見通しである。

図表1 7月生産台数(SAAR)は2か月連続の減少



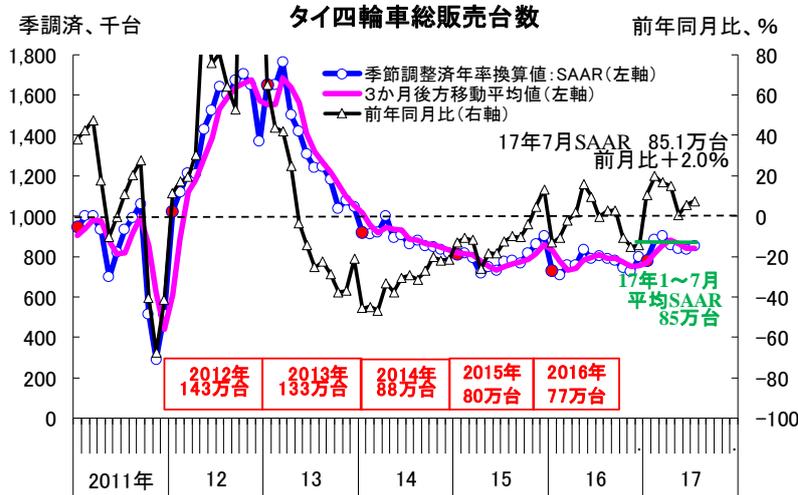
注1: 赤塗リマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 (SAAR) の減少が続く



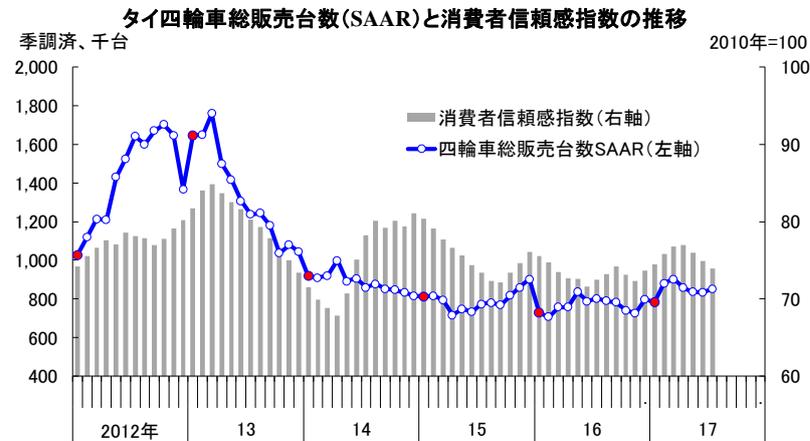
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売 (SAAR) も漸減傾向で力強さに欠ける展開



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 消費ムードの減退が国内販売の下押し要因に



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: Federation of Thai Industries, University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。